

定義や性質の確かな理解【比較する】 ベン図

【校種・学年】小学校第2学年

【教科・領域】算数科

【実践の概要】

- 1 単元名 14 はこの形
- 2 単元の目標 身のまわりの箱の形をしたものを観察したり、面を写し取ったり、構成したりする活動をとおして、立体図形を構成する要素に着目する。

3 本時の実際

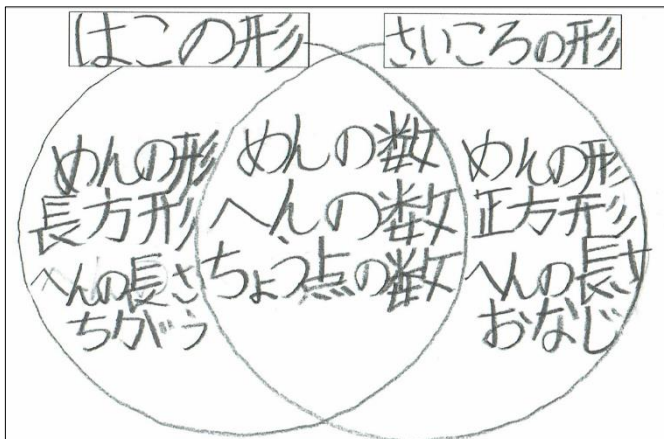
(1) 本時の目標

2つの箱(直方体・立方体)の形について比べ、共通点や相違点を見出し、立体図形の構成要素について理解する。

(2) 本時の展開

| 時 | 主な学習活動 | 研究の視点 |
|----|--|--------------------------|
| 導入 | ○学習課題を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> それぞれのはこの形について調べ、ちがいを 見つけよう。 </div> ○算数用語「面」「辺」「ちょう点」について知らせる。 | |
| 展開 | ○直方体と立方体の「面」「辺」「ちょう点」について、それぞれ調べる。(個人思考) ○ 調べたことを発表し、ベン図を使って比較する。(ペア交流・全体交流) | 視点2 (3) 「思考を表現に置き換える」 |
| 終末 | ○比較と交流を通して、わかったことをまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 面、辺、ちょう点の数は同じだけれど、面の 形と辺の長さがちがう。 </div> ○今日の学習を振り返る。 | |

4 ツールに見られた思考の姿



5 成果と課題

○児童の「同じところ(共通点)がすぐにわかる。」「形は違うのに、同じところがあることがよくわかった。」などの振り返りから、思考ツールを用いて考えることで、理解が促されるよさを実感させることができた。

■思考ツールの使い方を習得させる時間を、該当教科だけでなく、発達段階に応じて、学校の教育活動全体の中で培っていくことが必要である。